



2026.1.16 第22号

森田 博

4年「冬の星」「寒くなると」
5年「人のたんじょう」

寒い冬の植物や動物の様子は？

4年「寒くなると」の学習では、秋から冬にかけて植物や動物たちがどのように過ごし、春まで命をつないでいるのかを考え、自然を観察しました。子どもたちが見つけた植物の命のつなぎ方を図鑑にまとめました。バッタは秋に卵を土の中に産んで、卵の状態で命をつないでいます。ヘチマは夏に大きな実を作り、冬には種をたくさん作って命をつないでいます。



冬には、命をつなぐために色々な生物が頑張っているのだなと思った。

1年を通して同じ桜を同じ場所からタブレットに残し記録しました。

ふりかえり 夏とは違う冬の楽しさをしました。驚いたことはさくらの花芽、葉芽の違いは簡単に見分けることができることに驚きました。



※桜の写真は右の図鑑を作成した児童の記録。

サクラは、花芽、葉芽をしっかりと出して、寒い冬の間も夏に蓄えた養分を使って生きています。

更生保護女性会様が植えてくださったパンジーの花を見て、寒い中でも咲いていることに関心をもつ子もいました。



カブトムシの幼虫を観察しました。このカブトムシは、夏に6年生の児童が私に15匹もくれました。観察をさせる貴重な教材としても大切に育てています。子どもたちと共に、冬の間カブトムシは土の中で、枯葉や木くずを食べながら体を大きくし、生き抜いていることを考えました。